

まちづくりに関する提言書が提出されました。

去る3月10日、まちづくり審議会が開催され、「まちづくりに関する提言書」が市長に対して提出されました。

同審議会は、「各地域の振興及び均衡ある発展等を図るために必要な事項を調査・審議すること」を目的に設置されており、各地域から選任された委員15名で、6回にわたる審議を積み重ねて来られました。

市三役との意見交換では、各委員から熱心な意見が出され、池田市長は、「6回の審議で熱心に協議していただいたことに感謝するとともに、いただいたご意見を今後の施策に活かしていけるように努力したい。」と話されました。

審議会の委員と提言内容は、次のとおりです。

委員名簿

委員名	地域（役職）
田之上 尚 満	末吉
平澤津 タツ子	末吉
上 岡 義 孝	末吉
米 良 昌 志	末吉
山 中 ミチ子	末吉（副会長）
小 瀨 健 一	大隅
林 タキ子	大隅
藤 田 正 文	大隅
持 田 初 穂	大隅（会長）
永 野 一 広	大隅
柿 迫 建 太	財部
野 田 恵美子	財部
山ノ内 ひさえ	財部
東 村 裕 二	財部
上 野 博 利	財部

以上15名



「まちづくりに関する提言書」の提出

【提言書の内容】

「豊かな自然の中で生命の鼓動を感じるまち」

曾於市の総合振興計画に記載されているまちの将来像のとおり、曾於市に住んでいる人が、「ここが良い！ここに住みたい！」と自信を持って言えるまちをつくるためにはどのような政策が必要かという観点にたち、市長より委嘱を受けた私たち委員15名で、「第1次曾於市総合振興計画」等を参考にしながら6回にわたる審議を積み重ね、つぎの30項目の提言としてまとめました。

ここに「まちづくりに対する提言書」として提出しますので、早期に、今後の市政に反映させていただきますようお願いいたします。

No	ま ち づ く り に 対 す る 提 言
1	都市農村交流や子ども農山漁村プロジェクトなど農山漁村に旅行で訪れる人が多くなっています。本市でもグリーンツーリズム協議会を立ちあげ、農家等に民泊するグリーンツーリズムや遊休農地等を利用した体験型農業による都市との交流を積極的に支援する政策を望みます。そのことにより曾於市の宝を自分たちが知ることができ、曾於市にしかない魅力の発見に繋がると思います。また、財部の白鹿岳、大隅の岩屋観音など市民でさえまだ行ったことがないところがあるので、市内巡りなどの企画をし、まず市民に知ってもらう方策と曾於市にしかない魅力の構築をしていただくよう提案します。

No	まちづくりに対する提言
2	<p>特産品である牛肉をはじめ白菜・ユズ・茶・スイカなどのPRに努めブランド化を図るとともに新規の農作物の推進を要望します。また、スーパーで買い物をするときにQRコードで農薬の使用回数等の「生産情報」を確認できるようにしているところもあると聞いている。高齢の農家の人でも対応できるようなシステム（ソフト）を開発していただきたい。</p>
3	<p>森林の全伐が無秩序に行われ伐採後の植林がなされていないので、地球温暖化防止、災害予防の観点からも植林推進の施策を要望します。 また、木材の利用促進を図るため地産地材の住宅づくりの推進（補助金制度）や荒れた竹藪の対策および竹の活用を研究していただきたい。</p>
4	<p>近年の景気後退により商工業の経営は大変厳しいものがあり、商工業の支援、経営安定のための政策を要望します。また、プレミアム付商品券は大変よい制度であるので市の助成は続けていただき、加盟店が増えることを期待します。</p>
5	<p>本市においても農業者の高齢化や後継者不足など、この状況が続くと耕作放棄地が増加してしまいます。財部の大峯地区では、集落営農を行っているので参考にし、曾於市全体に広めていただきたい。 また、集落営農の推進や、後継者育成など積極的な農業振興の政策を望むとともに、季節によっては労働力の不足が生じているので、シルバー人材センターの一時増員や、若者が一時的に援農できるシステムを構築していただきたい。</p>
6	<p>農業分野への新規参入者の支援・育成をしていくためにも他市の「農業公社」が行うような新規就業支援や就農研修制度の立ちあげをしていただきたい。</p>
7	<p>今まで同様の支援・指導が受けられるよう、総合支所方式の見直しによる農業技師の本庁集約は避けていただきたい。茶の技術員は末吉に常駐している現状の中、そお鹿兒島農協も大隅にあり茶業農家にとっては、市職員の技師が一番身近で相談しやすい存在です。</p>
8	<p>曾於市の特産品である茶の消費拡大を図るため、お茶を口にする習慣が身に付くよう、市内小学校に給茶器を設置していただきたい。</p>
9	<p>市内の道路は、大隅や財部地域の整備が遅れており農業用車両の大型化に伴い通行に支障をきたしている路線が多数あるので、交通事故防止および農業振興のためにも地域住民のニーズに合わせた計画的な整備を望みます。 また、道路の幅が狭く通行が危険なところやマインドロードなど利用者が多いながら暗くて危険な所があるので、街灯の整備を含んだ道路整備を併せて望みます。</p>
10	<p>子供と高齢者が触れあうことは大切なことであり、子供から高齢者まで一緒に遊べる施設（例；パークゴルフ場など）の建設を要望します。</p>
11	<p>人口の減少が進んでいる本市において企業誘致や定住促進は重要な施策であり、高速道路などの交通体系や情報通信網の整備など企業が進出しやすい環境を整えることが重要であると考えます。市の財政は大変厳しいものがあると思いますが、早期にインフラ整備を進めていただき、本市に優良な企業が進出することを望みます。</p>
12	<p>空き店舗や空き屋等を解消するため、団塊世代の呼び込みや都市との交流活動に活用する政策を望みます。</p>
13	<p>郷土出身者会との交流はあるようだが、若い人同志の交流を図り「郷里に帰りたと思っている独身女性と地元男性との出会いの場」の提供を行っていただきたい。</p>
14	<p>旧3町で組織されていた各種団体が統合され統一した取組がなされていますが、祭や式典などが末吉地域集中とならないように配慮していただき、小さな祭やイベントなどが各地域で開催されることで活性化につながるので、周辺地域が活性化される方策を要望します。 また、「夏祭り」は、現状どおり各地域で開催できるよう補助金を継続していただきたい。</p>
15	<p>旧来の自治会が高齢化や住民の入れ替わり等により機能しにくくなっている現在、どのようにコミュニティを作りあげるかが重要な課題といえます。地域リーダーを育成し、住民が自ら創りあげ自ら行動する意識を芽生えさせることが大事であり、地域課題の解決は、住民が主体的に取り組むという意識を持つことが大事です。多くの地域づくりリーダーを養成し、地域づくりや青少年指導の資格取得の費用を助成するなど指導者育成支援を要望します。</p>

No	まちづくりに対する提言
16	市議会の審議に対して興味を持つ市民は多いので、議会中継をインターネットライブラリーで配信していただきたい。
17	<p>ゴミの問題に関し、「鹿児島市などではゴミの分別は必要ないそうだが、曾於市でも分別の必要のないゴミ処理ができないか。あるいは、都城市のように簡素化できないか。洗うのが大変だ。」との声もある。分別されたゴミが、資源回収にどのように使われているかなど、多くの情報が提供されることで住民意識の向上につながるので、きめ細かな情報提供を望みます。</p> <p>また、マイバッグ運動に取り組むなど、市民全体の意識の醸成を行い、すぐできることから取り組んでいただきたい。</p>
18	青少年や高齢者を犯罪から守るために市民パトロールなど見回り活動の推進に積極的に取り組んでいただくとともに各自治会等でパトロールを実施するような制度を立ち上げていただきたい。
19	救急車の対応の仕方について、現場に着いてから家族等の意見をきいて、病院の手配を行なうので間に合わない場合がある。人命に関わるような重篤な患者の場合、搬送しながら手配するなど、より早い対応を望みます。
20	乳幼児医療費の助成や出産補助など少子化対策には力を入れていただいておりますが、さらに曾於市独自の出産・育児に対する助成を望みます。
21	<p>子供の肥満化や運動機能の低下などを解消するためにも、メセナプールを活用した、何らかの対応を要望します。</p> <p>また、食の乱れがととも目につく状況もあります。食育にもっと力を入れ、特に小さい子供を持つ親に対し、食育の基本的な事を指導していく制度を望みます。そのことが、地産地消にもつながると思います。</p>
22	深川校区の実例として、校区をあげて生涯学習の取り組みを行ったところ、医療費が減少したようである。今後も、生涯学習を市内全域に普及させていただきたい。
23	子供と高齢者が触れあうことは大切なことであり、高齢者の生きがいつくりのためにも、各校区単位の生涯学習の推進や学校の教育課程に高齢者のさらなる活用を図っていただくよう提案します。
24	郷土芸能の伝承のためには、発表の場が数多くあることが必要であるので、郷土芸能の発表の場を増やしていただくとともに、郷土芸能伝承に対する支援をお願いしたい。
25	本市には、複式の小規模校が多いので児童数の減少に歯止めをかけるための山村留学や特認校制度への取り組み、小規模校の特色を生かした教育を推進されることを望みます。
26	中学校における学区制について、旧町単位で中学校の学区割りがしてあるが、合併によるメリットを活かせるように、通学距離の短い学校に行けるよう、進学する中学校を決められるようにしていただきたい。
27	中学校の統合により利用しなくなった校舎等の利用については、地元との意見交換を行いながらよりよい活用法を決定していただきたい。
28	学校給食の民間委託も進んでいるが、生産者と給食を食べるなどの心のふれあいを大事にしながら地産地消を推進し、安全安心な給食が学校に届けられるようにしていただきたい。
29	給食費未納者対策は、PTAで努力しているが、実効性がなく未納額は増え続けています。教育委員会にも協力いただいておりますが、市の方でも現状を良く把握して「子ども手当からの天引き」など早急な対応をお願いしたい。
30	<p>未来を担う青少年が郷土愛を育むように、小中学生に本市の歴史や史跡等を学ぶ学習及び自然体験教育や農業体験交流を推進していただくよう要望します。</p> <p>また、曾於市独自の子供教育（親の教育）や郷中教育に学ぶ事（負けるな、ウソをつくな、弱いものをいじめるな）も大切なことであり、親子、家庭、地域で、故郷を好きになり曾於市・鹿児島県・日本を愛する心「愛国（郷）心」を育む教育を行っていただきたい。</p>

平成 23 年 3 月 10 日 曾於市まちづくり審議会